【p78～p81】 ぼくの町のたからもの ー平之荘能舞台ー

1 資料活用にあたって

- 社会科の地域の人々が受けついできた文化財や年中行事の学習などに関連させると効果的である。
- 狂言について、簡単に説明しておくとうい。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：(転校生の) ぼく (子どもが「ぼく」になって考えられるように発問を工夫する。)
- 変化するきっかけ (助言) は：6年生の演じる狂言と観客 (地域の人々) がつくる空間
- 変化するところは：「ぼくは寒さを忘れ、いつのまにかこの不思議な空間の一員になっていた。」

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 加古川市立平荘小学校HP
<http://www.city.kakogawa.lg.jp/gakoen/ryosocyugakkoku/heisosyogakko/index.html>
- 平之荘神社について
 - ・ 加古川市平荘町にある「平之荘神社」は創建が鎌倉時代とされている歴史の古い神社であり、毎年10月に行われる秋祭りには獅子舞と2基の屋台が奉納され、境内は大変賑わう。境内には、1688年建立とされている能舞台がある。
- 狂言発表会について
 - ・ 10年ほど前から平荘小学校の6年生が平之荘神社の能舞台で狂言発表会を行っている。狂言発表会には1年生から5年生までの全校生、保護者、そして地域の人々が多数参加する。
 - ・ 狂言発表会に向けて、6年生は自分達でポスターを作成し、各町内会や店舗や事業所等に配布している。また毎年、新聞社やテレビ局などの取材もあり、地域外からのお客様も多く観客は年々増えている。
 - ・ 狂言の演目は有名な「附子」「柿山伏」をはじめ「菌」や「口真似」などである。低学年にはわかりにくい表現もあるが、笑いを誘う所作や台詞に引き込まれ、見ている者がついつい笑ってしまう場面も多くある。
 - ・ 狂言の指導は第1回より、大蔵流狂言師山口耕道先生の指導を受けている。1月の中旬から2月下旬の狂言発表会まで、週1回の稽古、そして各担任と毎日の稽古を行っている。大きな声を出したり、人前に立ったりすることが苦手な児童もいるが、何度も練習を積み重ねることによって次第に役になりきった演技に近づいていく。
 - ・ 衣装は浴衣と剣道用袴、そして手作りの袴。袴作りは2学期の後半から図工の授業で行っている。
 - ・ 6年生は1年生の時から狂言を観ており、発達段階に合わせて狂言を理解している。高学年になると、どの演目のどの場面を演じたいと思う児童も多く、「6年生になったら狂言をやるんだ。」という心構えはできている。

4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・わたしたちのまちの宝物 C (16)
- ・ **資料の概要** ・雪が降る寒い日に、ふるえながら神社の境内で狂言発表会を見学する転校生のぼくは、狂言に興味はないし、寒いのではやく帰りたいと思う。しかし、狂言が始まると、真剣な舞台と、演じている6年生と観ている地域の人々との一体感に引き込まれたぼくは、自分も早く6年生になって演じたいと思うようになる。
- ・ **ね ら い** ・6年生の演じる狂言を見て、寒さを忘れいつのまにか不思議な空間の一員になり道徳的に変化する主人公を通して、地域の伝統文化に積極的にかかわろうとする道徳的実践意欲を育てる。

・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ	副読本P80の写真(狂言の舞台)の写真を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・宮司さんの話を聞いている主人公の気持ちを考える。	開始前の宮司さんの話を聞いているぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・狂言は古くから伝わっているようだけれど、興味がないよ。 ・こんなに寒くちや楽しめないよ。 ・早く終わってくれよ。 ・どうして誰も文句を言わないのかな。
	・開演時の6年生のあいさつを聞いている主人公の気持ちを考える。	狂言が始まる前の6年生のあいさつを聞いているぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・6年生は真剣だな。 ・見ている地域の人たちも真剣だな。 ・ぼくだけが取り残されているみたいだ。
	・終演時の6年生のあいさつを聞いている主人公の気持ちを考える。	ぼくは、どうして寒さをわすれたのでしょうか。 ・舞台のすばらしさや熱気を感じたから。 ・みんなと一体感を感じたから。 ・胸をはって堂々と舞台に立つ6年生がかっこよかったから。
	・みんなと一緒にうなずいた時の主人公の気持ちを考える。	「はやく6年生になりたいね」と誰かが言った時、みんなと一緒にうなずいたぼくは、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・ぼくも6年生になったら狂言をがんばりたい。 ・たくさんの地域の人々に観てほしい。 ・ぼくもこの地域の一人としてがんばるぞ。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

寒い中を待ち、能舞台や狂言発表会の話に興味をもてない主人公は、地域の伝統に親しもうという意識が低いことをおさえる。

地域の伝統を受け継ぐことを誇りに思っ
てあいさつをする6年生と真剣に聞くみんなに囲まれて、取り残されたように感じる主人公の心を考えさせる。

演じる側と見ている地域の人々が一つになったような不思議な空間がきっかけとなり、郷土の伝統文化を大切にすることのすばらしさを主人公が感じていることをおさえる。

主人公の「郷土の伝統文化を大切にしよう」という心情の高まりをおさえる。